

# 4分間の感想に感動!

# はばたけ

平成28年2月5日  
本部小第32号  
校長 森元幹生

「障害」という悪口を言う子どもがいるという連絡を受け、学級指導、学年集会ののち、さらに今週水曜日に校長講話としてとりあげました。

私は、白血病や、障害をもっている人が、とて  
も怒り怒るのとはとてすこしいと思  
います。  
なりたいわけでもないから、かわいそ  
うと同情を持っていますか!何を根拠  
かわいそうと言っているのかを考えて行動  
ていきたいと思いました。若いうなとに  
専念して頑張るって欲しいと思いました!

今日は、校長講話で「障害」というこ  
とについて考えていきました。  
話を聞いていくうちに、「障害」という  
言葉は、糸色文に使用してはいけないこ  
とだとわかりました。私の知り合い  
にも、そういう人がいるけど、でも必  
死にかんはってはいっています。「障害」と  
いう言葉だけじゃなくて、相手かきおっ  
くことは、糸色文に言わないようにしたい所

現在20人に1人以上が障害者(平成17〜18年厚労省資料)というデータと、下のイラスト(『発達と障害を考える本』ミネルヴァ書房)より、障害はとても身近なものということを話しました。

講話後、4分間感想を書いてもらいましたが、上に紹介している6年生のように、子どもたちの一生懸命考えていることに心が震えるほど感動しました。

しかし、残念なことに、校長講話の日の放課後、一部の児童のいじめがおき、悲しんでいる児童がいます。学校では、このような一部の児童に対しこれからも強力に指導を進めていきます。ご家庭でもご指導よろしくお願いします。



また、障害者の他にも、抗がん剤を飲みながらも「負けない」「あきらめない」という一生懸命戦っている小児ガンや白血病の児童についても考えてもらいました。すべての児童が思いやりのある人に…

※紙面の都合上、児童感想はHP参照してください